

三八八六番

おしてるや 難波なにはの小江をえに 廬いほつく作り 隠なまりて居をる

葦蟹あしがにを 大君おほきみ召めすと 何なにせむに 我わを召めすらめや

明けあきらく 我わが知しることを 歌人うたびとと 我わを召めすらめ

や 笛吹ふえふきと 我わを召めすらめや 琴弾ことひきと 我わを

召めすらめや かもかくも 命みこと受けむと 今日けふ今

日ふと 明日あす香かに至いたり 置おくとも 置お勿くなに至いたり つ

かねども 都久怒つくのに至いたり 東ひむがしの 中なかの御門みかどゆ

参まり来きて 命みこと受うくれば 馬うまにこそ ふもだし

くもの 牛うしにこそ 鼻繩はななは著はくれ あしひきの こ

の片山かたやまの もむにれを 五百枝いほえは剥はぎ垂たれ 天照あまてる

や 日ひの異けに干ほし さひづるや 韓からうす曰うに搗つき 庭にわ

に立たつ 手曰てうすに搗つき おしてるや 難波なにはの小江をえの

初垂はつたりを 辛からく垂たれ来きて 陶人すゑひとの 作つくれる瓶かめを 今け

日行ふゆきて 明日あす取とり持もち来き 我わが目めらに 塩塗しほぬり

たまひ 腊きたひはやすも 腊きたひはやすも